

おわりに

瀬戸内海環境保全協会では、平成 23 年度に設立 35 年となることを契機に、新たな瀬戸内海の環境保全への意識の醸成を図ることを目的として「海文化委員会」が当協会内に設置された。その後、選任された委員と事務局で平成 24 年度から「海文化委員会」を開催してきた。委員会では、瀬戸内海への親しみや海への関心を高め、人々とのふれあいや絆を強め、瀬戸内海を里海として再生することを念頭に「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」の検討が進められ、次の 6 つのテーマが設定された。以降、テーマ毎に資料の収集を重ねながら、事業成果としては、海文化シリーズ「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」として 6 つの小冊子の刊行という形で成果を公表してきた。

- ① 瀬戸内の食文化（平成 27 年 7 月発行）
- ② 瀬戸内の伝統行事（平成 28 年 3 月発行）
- ③ 瀬戸内の石の文化・塩の文化（平成 29 年 9 月発行）
- ④ 瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み（平成 30 年 11 月発行）
- ⑤ 瀬戸内の海・浜辺と保全の取り組み（令和元年 10 月発行）
- ⑥ 瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み（令和 3 年 2 月発行）

それぞれの小冊子は各テーマに基づき事務局で基礎知見を収集編集したものに、会員の自治体等の方々にご協力をいただいて収集された各地域における個別の情報を加えて制作された。これにより、いずれも瀬戸内におけるテーマ別の貴重な情報資料集といえるものとなった。

移り変わる時代の中、世代によって景観への価値観に差異が見られる。さらに、社会の変化も受けて、これまで引き継がれてきた文化や行事、景観が存続の危機に瀕しているものがある。すでに消え去っていったものもある。しかし、社会や人々の価値観の変化とともに改めて価値が再認識され保全されるようになることもある。この海文化シリーズが「瀬戸内の海文化」を知り、見直すきっかけとなっただけであれば幸いである。

今回、最後のテーマである「瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み」をもって、この「瀬戸内海における水環境を基調とした海文化」のシリーズは完結する。

これまでの成果は小冊子とともに当協会のホームページ内でも閲覧できるので、必要に応じて参考いただきたい。【<https://www.seto.or.jp/publish>】

最後に、多くの方々からのご協力により各冊子が完成できたことに深く感謝し、ここにご協力いただいた皆様、歴代の委員ならびに有識者アドバイザーの皆様に対し心より御礼申し上げます。

瀬戸内海が美しく豊かであることの一助として、海文化シリーズ「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」の情報が活かされることを祈念したい。

令和 3 年 2 月
公益社団法人瀬戸内海環境保全協会